

もう一度見てみると

梅林中 一年 KK

一度自分で見て、このようになっていて、と思ったものを、二度目に見てみると、やっぱり違うな、という経験したことがあるだろう。

左の図は、ゴミの山をライトで照らしたもので、ほとんどの人は一見して、「汚い」とか、「いやだなあ」という感想を持つだろう。しかし、この図はとても仲がいいことを表している。もう気づいた人もいるだろうか。影を見ると、寄り添ったカップルのような二人を見ることができると。



この場合、ゴミの山を見ているとそれにしか見えないうが、影を見ると二人のカップルが浮かび上がってくるのだ。

このようなことは日常の中でもある。一見するとき

れいに整頓されたクローゼットも、服のたたみ方がぐしゃぐしゃで、着ようと出してみるとしわしわ、なんてこともあるかもしれない。日常の中でも、見る場所を変えると全く違うイメージが見て取れるのだ。

左の図を見てみよう。この絵には、二種類の絵が見てとれる。もう気づいた人も多いだろう。実はこの絵には、カエルと馬の二匹がいるのだ。カエルの絵を反時計回りに九〇度回すと馬、馬の絵を時計回りに九〇度回すと、カエルの絵が見えるだろう。



これも、日常の中に存在する。一組のオルガンは、普段は、「邪魔だから」と置いてあるように見えるが、実はオルガンをホコリから守るための工夫だったのである。

このように、ものには色々な側面があり、同じ物でも、二度、三度と繰り返し見るうちに、その物の良いところも悪いところも、両方見えてくるだろう。